

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一13:1～3「愛がないなら」

[1]「たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどころや、うるさいシンバルと同じです」

「異言」…恍惚状態で語る意味不明のことば。たといそれが人からのものであっても、御使いからのものであっても、愛がないなら、ただやかましいだけだとパウロは言う。異言を語る当人はそれに陶醉し、注目を集めたとしても、他人には全然わからず、彼らに対する愛や配慮がなく、当惑させ、ただつまずかせているだけならば、それはうるさい騒音をまき散らすだけで何の役にも立たないのである。これはまた、賜物を授けられた神のみこころにもさからっていることになる。

[2]「また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値打もありません」

「預言の賜物」…神のみこころを受け、それを人に伝え、教会を導き励ます賜物。旧約のバラムはこの預言の賜物を持つ者であったが、彼はその賜物を正しく用いず、イスラエルを惑わしたがために最後には滅ぼされてしまった。→民数記22～24章、民数記31:8 彼は愛の道ではなく、私利私欲のためにそれを用いたからであった。

また神の救いの計画に関する「あらゆる奥義とあらゆる知識」に通じていたとしても、そこに愛がないならば、それはむなしい。→ヘロデ王の宮廷づめの祭司長、学者たちの対応→マタイ2:1～6 同様に「山を動かすほどの完全な信仰」を持っていてもその信仰を愛をもって用いなければ何の値打もない。そればかりかかえって害をもたらすことになるかもしれない。

[3]「また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません」

持っている物を貧しい人たちに分け与える慈善行為は初代教会においても非常に重んじられていた。しかし、それが愛から出たことではなく、人にほめられたい、よく思われたい等の動機から出たものならば、それは神の前に正しいものではない。→使徒5:1～11 誰も知らないような心の思い、うそ偽りも神の前には隠すことはできない。施しに対する神の報い→マタイ6:1～4

また最高の犠牲的精神の現われとって自分のからだを焼かれるために渡すようなことがあっても、愛がなければ何の役にも立たない。自分が尊敬し、信じる人物や主義主張のために殉死、殉教するようなことをしたとしても、それが愛から出ていないならば、それは神の前には無価値なものとなる。このIコリント13章ほど自分を善人と思っている人々に対して鋭く自己吟味を迫っているところはない。→マタイ7:21～23

私たちも自分のことば、自分の行い、また自分の賜物を用いることにおいて、それが愛からであるかよくよく吟味して人を喜ばせ、また自分の評価を高めようとしてではなく、神のため、教会のために正しく用いていかなければならない。愛についてはさらに4節以下で詳しく説明されていく。